

■概要

収納ユニットやテーブルの製品性能評価試験として、JIS規格に準拠した強度と耐久性試験を実施しています。ここでは、JIS S 1200およびJIS S 1205に規定されている試験項目について示します。

■参考規格

- JIS S 1200:2012「家具－収納ユニット－強度及び耐久性試験方法」
- JIS S 1205:1998「家具－テーブル－強度と耐久性の試験方法」
- JIS S 1031:2016「オフィス用机・テーブル」
- JIS S 1033:2004「オフィス用収納家具」

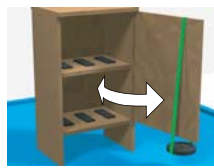
家具－収納ユニット－強度及び耐久性試験方法 JIS S 1200:2012 より

6.1.3 棚板試験－棚板のたわみ試験



質量	試験区分表の参考値
時間	7日間
測定位置	棚板前縁の中間点に近い位置(棚板に中央支持具がある場合は、たわみが最も大きい位置)

7.1.2.1 開き戸への垂直荷重試験



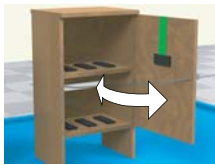
質量	試験区分表の参考値
位置	ヒンジから最も離れた縁から100mmの位置
範囲	全閉に対し45度開いた位置から、全開の内側10度の位置まで
回数	10回

7.1.2.2 開き戸への水平荷重試験



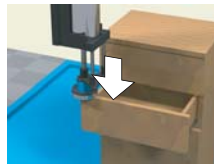
力	試験区分表の参考値
位置	ヒンジから最も離れた縁から100mmの位置における水平中心線上
回数	10秒ずつ10回

7.1.4 開き戸の耐久性試験



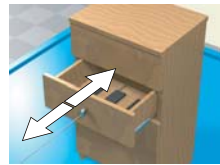
質量	1kg×2
位置	戸の表裏の垂直中心線上
範囲	全閉から最大130°
回数	試験区分表の参考値

7.5.2 引出しの強度試験



力	試験区分表の参考値
回数	10秒ずつ10回
引出し位置	引出しの内法の3分の1(ただし、少なくとも100mm)が収納ユニットの内部に残る位置

7.5.3 引出しの耐久性試験



質量	試験区分表の参考値
範囲	全閉から、引出しの内法の3分の1(ただし、少なくとも100mm)が収納ユニットの内部に残る位置
回数	試験区分表の参考値
速度	0.25m/s

家具－テーブル－強度と耐久性の試験方法 JIS S 1205:1998 より

7.1.1 垂直力試験－主作業面



力	試験区分表の参考値
位置	甲板の破壊を起こしやすい箇所
回数	10秒ずつ10回

7.1.3 垂直力試験－持続垂直荷重試験



質量	試験区分表の参考値
時間	7日間
測定	甲板の直線に対するたわみを、加重を加える前と、加えた7日後に調べる

7.2 水平力試験



力	試験区分表の参考値
回数	1辺につき10秒ずつ10回
備考	短辺A, Bに力を加えるときは、脚1, 2を固定する。長辺C, Dに力を加えるときは、脚2, 3を固定する

7.3 水平面に対する衝撃試験



高さ	試験区分表の参考値
位置	支持点に近い位置および最も長い縁の中心(片持ちテーブルの場合は甲板の支持点から最も離れた縁)
回数	各10回

※衝撃体の質量：25kg

7.4 落下試験



高さ	試験区分表の参考値
回数	10回
備考	スタッキングテーブルの場合、1本の脚に衝撃を与えるため、全体を斜めに傾け、つり上げてから落下させる

